

# 世界と一体化した国際活動の戦略的展開に向けて

## 世界と一体化した国際活動の戦略的展開の取組

天然資源に乏しく少子高齢化が進む日本が、世界の中で確たる地位を維持するためには、科学技術イノベーションにおける強化を図ることが喫緊の課題です。そのため、第4期科学技術基本計画では、「世界の活力と一体となった科学技術活動の国際展開」に取り組み、アジア共通の問題解決に向けた研究開発の推進や、科学技術外交の新たな展開を図ることが期待されています。

**科学技術外交の新たな展開**

- 我が国の強みを活かした国際活動の展開
  - 我が国の強みを活かし、社会変革につながるシステムのアジア地域を中心とした新興国への展開を促進
- 先端科学技術に関する国際活動の推進
  - 先進国や国際機関との連携・協力の下、先端的な科学技術に関する研究開発活動を推進
  - 国際研究ネットワークの充実
- 地球規模問題に関する開発途上国との協調及び協力の推進
  - 開発途上国との間で、科学技術について多面的な国際協調及び協力を推進
- 科学技術の国際活動を展開するための基盤の強化
  - 諸外国との政府間対話等を一層充実
  - 海外の科学技術の動向に関する情報を継続的に収集、活用

**東アジア・サイエンス&イノベーション・エリア構想**

**東アジア・サイエンス&イノベーション・エリア**

アジア諸国の優秀な頭脳を日本に取り込むとともに、日本の研究機関・研究資金も積極的に海外展開を図り、**アジアの活力と一体となって研究開発力を強化**

日本の研究開発力強化とグリーンイノベーション、ライフイノベーションのアジア全体での促進を同時に実現

環境・エネルギー、食料、健康、安全・安心など**アジアが共通して抱える課題に、日本がアジアの国々と共同して取り組む**

**日アフリカ間の科学技術イノベーション協力**

- 2008年6月の第4回アフリカ開発会議（TICAD IV）において、日本アフリカ科学技術大臣会合の開催が提唱され、同年10月に第1回、2010年10月に第2回大臣会合を開催。
- 第2回会合では、継続的な協力に向けて、日アフリカ間のネットワークを構築することについて基本合意。

研究協力  
専門家派遣  
人的交流のネットワーク

## 科学技術外交とは

日本が国際社会においてプレゼンスを発揮するためのソフトパワーとなる「科学技術」。国際社会との関係構築を通じて国益の確保・増進を図る「外交」。この2つの連携を高度化させ、相乗効果を発揮させようという考え方が、「科学技術外交」です。総合科学技術会議は、これを平成20年5月「科学技術外交の強化に向けて」で提言し、関係各省と科学技術外交の強化に向けた取組を進めています。

## 諸外国との政府間対話

総合科学技術会議は、先進国や開発途上国、新興国と閣僚あるいは有識者間での定期的な政策対話を通じて、日本の科学技術力を活かした諸外国とのネットワーク形成や協力の拡大に努めています。

- 国際科学技術関係大臣会合（平成16年～、毎年）
- アジア地域科学技術閣僚会議（平成18、20年）
- G8科学技術大臣会合（平成20年6月）
- 日本アフリカ科学技術大臣会合（平成20、22年）
- 総合科学技術会議議員と韓国国家科学技術委員会との政策対話（平成19、21～23年）



## 産学官の連携

産学官連携の推進に向けた具体的な課題の解決に資するため、産学官連携を担うリーダーや実務経験者等を中心に、情報交換、対話・交流等を行う産学官連携推進会議を平成14年度より開催しています。

産学官連携の推進に多大な貢献をした優れた成功事例に関し、その功績を称えることにより、我が国の産学官連携の進展に寄与することを目的とし、平成15年度より産学官連携功労者表彰を行っております。

